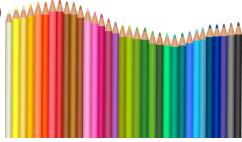


# JRCスタッフの family ties ～家族への愛～

## ＜常務執行役員：木本 史晴＞（1995年4月入社）



私には、今年20歳になる息子がおり、高校を卒業し、介護の仕事に就きました。

通っていた高校には介護福祉の科目があったので、基本を学んでからの就職となり、本人もやる気に満ちていました。

4月に就職し、6月の父の日には、初任給で財布をプレゼントしてもらい、9月の誕生日プレゼントにはセカンドバックを買ってくれました。

そのころから徐々に言葉数が少なくなってきたのですが、まあ、5月病みたいなものだろうと、様子を見てみて、しばらく状態が続くようであれば、声をかけようと夫婦でも話していました。

11月になると「ちょっと話がある」と言われ、「実は仕事を辞めようと思っている」と切り出された。

何で辞めたいのか理由を聞くと「日々人が亡くなっていく事が耐えられない」と言う。・・・衝撃を受けました・・・

毎日人が亡くなっていく事、昨日笑顔だった人が、今日いなくなるという事、人の命という重みを18歳で目の当たりにして、それを受け止めていた事。

私は、人の死ということに携わる仕事があり、それぞれに受け止めながら頑張っている人がいるという事を改めて感じさせられた一言でした。

今はデザインを学びたいと、専門学校に通っており、将来は商業施設や住宅などのインテリア等の仕事に就きたいと、私の仕事に近い職業を目指している事に少し嬉しさを感じています。

しかし専門学校も学費がかなり高額ですね～

やっと独り立ちしたと思ったら、まだ「すね」をかじられると思うと、うれしいやら悲しいやら・・・ですね



## ＜営業課長：木村 幸美＞（2003年2月入社）



我が家は、夫婦と愛犬サンタ君の3人家族です。

サンタ君は8年前の12月に、生後1ヶ月で友人に譲り受け我が家にやってきました。

生後間もなく我が家に来たせいか本来の性格なのか非常に甘えん坊で、また、ほとんど吠えないので親しい友人ですらサンタの低音ボイスを聞いたことがあ

りません（笑）

また、サンタの名前の由来ですが5人兄弟の3男でクリスマスが近い12月中旬に我が家にやってきましたのでサンタと名付けました。

そんなサンタとも11月で9年の付き合いになります。人間でいうと50代前半、立派なおジサマです。

昨年より体力が落ちてきているように感じることもあり、仕事で不在

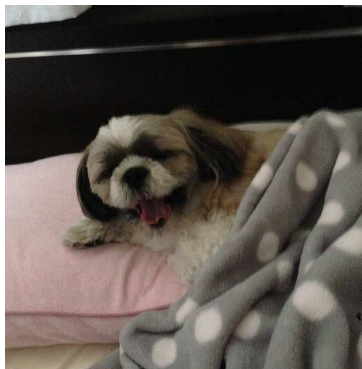
にしている時に何かあったらと心配になることもありますが、自宅に戻ると「待ってました」と言わんばかりに玄関で待ち構えているサンタを見ると毎日のことながら癒しとLOVEを与えてもらってます。

今年から年に1度の健康診断を受診して、健康管理に気を付けてこれからも大好きなおやつが食べられるようにしたいと思います。

サンタがおじいちゃんになったときはJRCの看板犬として子連れ入社ならぬ、ワンコ連れ出社をさせていただく予定ですので、社長よろしくお祈りします（笑）



生後2ヶ月ごろのサンタです。



家族一の寝坊助ちゃんです。雨の日は、起こしてもなかなか起きません。

## ＜営業課長：小日向 昭弘＞（2003年5月入社）

40代未婚男性の結婚できる確率は1%～3%程度という現実の中で、先日友人のS君から結婚するという連絡をもらいました。同年代の独身遊び仲間が減ることになりますが、『おめでとうございます。相手の気が変わらないうちに早く入籍したほうが良いよ』と気の利いたお祝いコメントを送っておきました。

その数日後、結婚するので新居としてマンション購入をいただいたK様のお母様より、K様の結婚式の日取りが決まったとのお話をいただきました。20代の二人が結婚するという話に、未永くお幸せにと思う気持ちでいっぱいです。

K様と言ってはおりますが、10数年前に彼が学生の頃JRCでアルバイトをしていた時からの付き合いで、年齢もひと回り以上離れている事もあり、今回の話は親戚のおじさんのような気分でもあります。

住宅業界の仕事が続いていると、K様のような人生の節目に立ち会えることをうれしく思うとともに、責任を感じる仕事であり非常にやりがいがある仕事でもあります。購入いただいたマイホームで家族として、愛のある新しい生活が始まっていくことが一番うれしく思います。

いつまでたっても自分自身の浮いた話が出てこないの、お読みの方はまだかとお思いでしょうが、残念ながら多数を占める97%～99%側に属しております。

住まいに関する相談と良縁の話は、『every time』受け付けておりますので、よろしくお祈りいたします。



## ＜設計監理課：清水 豪＞（2011年3月入社）

夏らしく暑くなって参りまして私の28回目の誕生日も間近です。一足早く27歳を振り返りますと身の回りの環境で一番変わったのは昨年に2歳年上の姉が結婚をし、家では一人っ子になった事でしょうか。最大で10人家族であった事を思うと、寂しくなるのかと思っておりましたが、思ったほどではございませんでした。

よく母が「妹達とはお互いが家庭を持つてからのの方が話すようになった。」と言っておりましたが、最近の姉弟関係もそんな感じになってきたように思います。私には双子の姉がおりますが、一緒にいた頃よりも話すようになりました。仕事の事や家庭の事、生き方の事等、一緒にいた頃にはまずなかった会話をする様になりました。

私の性格は一つの事に集中して取り組む事が好きだと自覚をしていますが、今回雑談した姉は違った性格の持ち主で、興味をもった事は取り敢えずやってみる、色々やってみようという性格です。ですので、私が集中してとり組んでいる事が思うようにいっていない時は、姉の良い意味で楽観的な考え方を聞く事で心を落ち着ける事ができます。

何より良いのが本当に雑談という感じで、自分の考え方を否定されるという事が無いので、姉の話しを聞いて良いと思った事を、素直に受け入れられる事です。自身の生き方について相手に話して、こうした方が良いという相手の考えの結論がない、雑談を行えるのは姉弟ならではの



でしょうか。一緒に暮らしていた時は考え方が違う事で些細な言い合いが多かった姉ですが、今では貴重な雑談相手です。

一緒に暮らしている時は余り感じませんでしたが、今では姉に感謝しなければなと思います。まだ見込みは立ちませんが、もし自分が家庭を持つてことになったのなら兄弟仲が良い家庭にしたいです。